

ADB、ジャワ島中部大地震支援にまず6000万ドル 黒田総裁がインドネシア政府に提供申し出る

〔マニラ フィリピン 2006年5月30日〕 アジア開発銀行（ADB）は、インドネシアのジョクジャカルタおよびジャワ島中部の地震被災地域に必要な復興支援のため総額6000万ドルの資金提供をインドネシア政府に申し出た。このうち1000万ドルが緊急無償援助、5000万ドルがソフトローンとなっている。

黒田 ADB 総裁は、ジョクジャカルタでインドネシアのユドヨノ大統領と会談後、「われわれは、被災者の方々の生活やその生計の手段を取り戻す手助けをするために、インドネシアに対し、あらゆる支援を行っていきます」と述べると同時に「われわれは、地震によって起きた被災や損害の状況、さらに復興需要をインドネシア政府や他の開発機関とともに緊密に連携して調査し、それをもとに必要となる再建や復興のプログラムを実行してまいります」と述べた。

黒田総裁は本日（30日）、27日の地震で壊滅的な被害を受けたジャワ島中部の被災地を訪れ、この自然災害で影響を受けたインドネシアの地方政府関係者や被災者に会う。

黒田総裁は、「2004年の地震、そして津波の被害にあってそれほど時間がたたないうちに、また強い地震がやってきましたが、われわれは、インドネシアの国民のみなさんに同情申し上げると同時に、厳しい環境下で示しておられる勇気の強さを見ました」と述べた。

ユドヨノ大統領と会談後、黒田総裁は、緊急事態に対する大統領の対応をたたえた。そして「被災地の近くに政府の対策本部を設置し被災地の住民を助けるために必要物資の手当てを行う大統領の機敏な対応は、極めて印象的なことです。ADB や国際社会は、この重い課題に対応する大統領を支えていくつもりです」と述べた。

ADB 東南アジア局のラジャット・ナグ局長は、被災状況を調査すると同時に、ADB がインドネシアに対して行えるベストな支援策が何かを決めるため、地震直後の28日にジャカルタに到着し、ユスフ・カーラ副大統領とスリ・ムルヤニ・インドラワティ財務相とも会談した。

ADB は、インドネシアで現在進めているプロジェクトについて、いかに資源が効果的かつ迅速に動員されるか見守っている。

ADB は、インドネシアを襲った最近のアジア津波や南アジア地震を含む自然災害への対応に関する長い経験を活用している。

Media Inquiries Only

Yoshiji Makino
Tel: +81 3 3504 3160
Email: ymakino@adb.org

Electronic versions of ADB news releases

ADB Online Media Center: media.adb.org
ADB web site: www.adb.org